

フォーラム

特定非営利活動法人 奈良 21 世紀フォーラム会報

2019年
新春号
No.34

ニュース

◇平成 30 年実施の主な事業

- 2 月 11 日 大和の奇祭「お綱祭り」見学
- 5 月 14 日 當麻寺の「練供養」見学
- 6 月 16 日 平成 3 0 年度通常総会開催
- 6 月 24 日 春日大社奉納蹴鞠の実施

《以上 会報 No. 33 で報告》

- 8 月 1 日 花蓮の藤原宮跡を訪ねる
- 10 月 27 日 第 9 回大仏書道大会
～ 28 日
- 11 月 1 日 水源地の森・川上村三之公を訪ねる
- 12 月 1 日 神武天皇創世の地と新沢千塚古墳を訪ねる



年頭のご挨拶

平成 31 年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。
本年が会員皆様にとりまして輝かしい年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年我が国経済は為替が円安で推移し、大手の輸出産業を中心に好調な決算が見込まれています。

一方、アメリカに代表される海外の保護主義的な政策が日本経済にどの程度影響してくるのか懸念されます。

明るい話題としては、2020年東京オリンピック開催に続き、2025年に大阪で万博が開催されることが決定しました。これらを契機としてさらに海外からの観光客の増加が期待されると同時に、世界遺産をはじめとして世界に誇る奈良県の歴史、文化等が国内外を問わず多くの人々に体験していただける好機に繋がるものと思います。

奈良21世紀フォーラムでは、万葉蹴鞠の復元・保存事業においては平成27年、28年に春日大社第60次式年造替奉祝奉納蹴鞠を実施、以来毎年春日大社奉納蹴鞠として斎行し、着実に定着してまいりました。書の文化の伝承事業では今年で節目となる第10回大仏書道大会を11月に東大寺大仏殿西回廊に於いて開催する予定です。

その他、奈良の歴史文化資源の探訪、森を守る活動支援事業などの事業を継続、推進してまいります。

また、奈良県企業文化の調査紹介の事業として、長年に渡り発刊してまいりました「奈良の風土産業・企業人列伝」の冊子をまとめ書籍化し出版してまいります。

今後も、日本の歴史・文化の発祥の地である奈良の地において意義ある事業を展開、推進するため、会員の増強や財政的な基盤の充実に努めてまいります。

会員皆様の変わらぬご理解とご支援並びに各事業への積極的なご参加をお願い申し上げます。



理事長 植野康夫

(2019年1月吉日)

平成30年7月から12月に実施した事業

1. 書の文化の伝承

◎第9回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 平成30年10月27日（土）～28日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

10月27日（土）から28日（日）の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて、「第9回大仏書道大会」の書道展を開催しました。28日（日）には表彰式・席書会・大仏さまへの作品奉納も行いました。

当書道展は、書の可能性を感じさせるような作品、単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。平城遷都1300年を記念して始まり、今年で第9回目を迎えました。

今回も60の高校・大学から1109点の応募があり、学生書道界に定着してきました。森本公誠・東大寺長老（当フォーラム理事・特別顧問）を審査委員長に迎え、奈良県教育委員会の書道担当職員、高校や大学の書道教員に今回も審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。

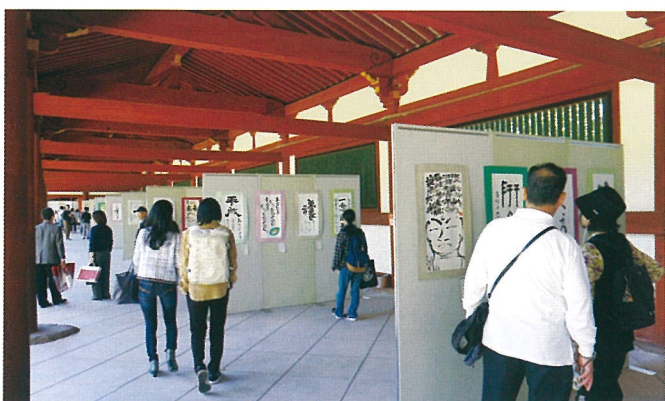
また、奨励賞に今宮高等学校（大阪府）、奈良学園登美ヶ丘高等学校（奈良県）、越ヶ谷高等学校（埼玉県）の3校が選ばれました。

受賞作品100点を大仏殿西回廊に展示しました。正倉院展の開催期間と重なり、地元奈良はもちろんのこと、全国各地・海外からの参拝客、観光客の方にも観覧していただき、約1100名の来場を得ました。2日目は席書会も開催し、森本長老の講話の後、高校生・大学生約20名が華嚴唯心偈（百字心経）の写経と自由な作品創作を行いました。その後、森本長老のご案内で、大仏さまの台座へ上がって作品を奉納しました。

以下写真でご紹介します。



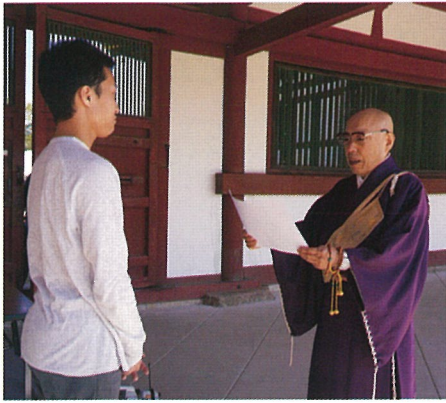
審査会風景（朝日新聞社奈良支局）



展覧会の様子



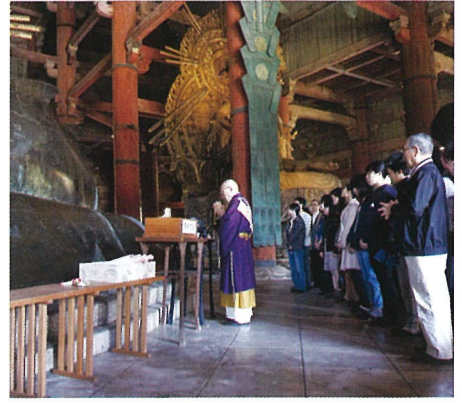
森本長老の講話に耳を傾ける



表彰状が授与される



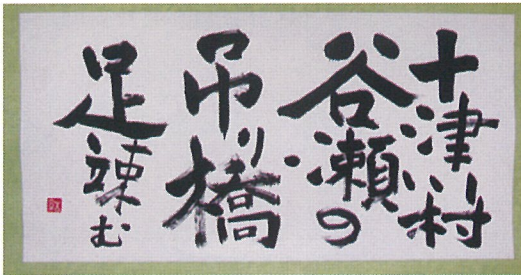
席書会の様子



大仏さまに作品を奉納

特別賞（7点）

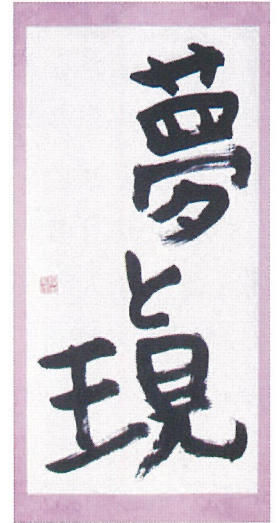
奈良県知事賞



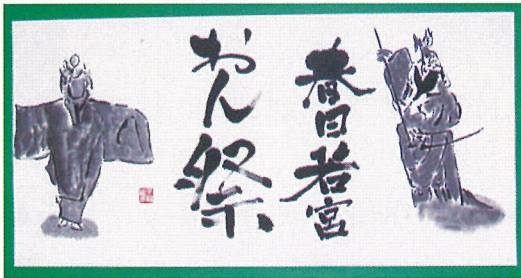
奈良県教育長賞



奈良市長賞



奈良市教育長賞

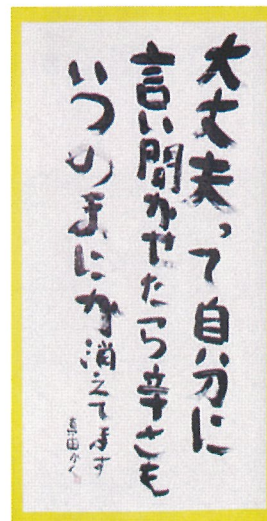


奈良 21 世紀フォーラム理事長賞



- 奈良県知事賞 「谷瀬の吊り橋」
小山結生さん（大阪国際滝井高等学校）
- 奈良県教育長賞 「無事」
清原 健さん（奈良教育大学）
- 奈良市長賞 「夢と現」
小西 陽さん（奈良県立榛生昇陽高等学校）
- 奈良市教育長賞 「春日若宮おん祭」
久保諒介さん（兵庫県立吉川高等学校）
- 東大寺賞 「希望」
内山枝美花さん（埼玉県立越ヶ谷高等学校）
- 朝日新聞社賞 「大丈夫って…」
澤谷真由さん（札幌市立山の手養護学校）
- 奈良 21 世紀フォーラム理事長賞 「秋 エモーションナル」
福田萌衣さん（奈良学園大学 奈良文化女子短期大学部）

朝日新聞社賞



東大寺賞



2. 「奈良の歴史文化資源」の探訪

◎花蓮の藤原宮跡を訪ねる

実施日 平成30年8月1日(水)

参加者 13名

天の香具山、耳成山、畝傍山の大和三山、そして甘檜丘に囲まれた藤原京跡。国家体制確立の地であり、わが国最初の大規模都城を建設したところである。

8月1日、その中の中心となる花蓮の咲く藤原宮跡を訪ねた。

今年の夏は例年になく暑さが厳しく、当初予定していた畝傍御陵前駅から本薬師寺跡を經由して藤原京資料室までの歩行分を大幅にカットのコース変更となった。

従って八木駅からバスで、藤原宮跡大極殿跡にほど近いJAならけん橿原東部経済センターに直行することになった。一行は猛烈な日差しに汗を流すこともなく、二階の藤原京資料室に入る。展示物の中心となる藤原京の一千分の一の模型を見ながら、解説を受けた。

その後、場所を一階の会議室に移して昼食をとる。幕の内弁当に舌鼓、しばらく歓談の後再び、用意された資料を手元に藤原宮と京について詳しく学んだ。

このあと、隣の宮跡に移動。大極殿跡に佇み大極殿の役目などを復習、また、持統天皇が宮内から見て香具山を詠んだ「春過ぎて 夏来たるらし 白栲の 衣乾したり 天の香具山」の歌の紹介があり、参加者は想像を豊かにした様子だった。



可憐な蓮の花が咲く



藤原宮跡に行く

宮跡を西から東に横切る形で歩き、いよいよ期待していた蓮花の咲く場所へ。異常な暑さで早くも、盛りは過ぎたようだったが、うす紅色、白色などの清楚な美しさを楽しむことができた。

20分ほどで最終地点である「奈良文化財研究所藤原京資料室」へ到着。ここでは、京や宮跡の発掘成果を中心に展示されていて、昼食のあとに説明を受けた内容を確認するかたちで、展示物一つひとつを熱心に見て歩いた。

今回は1300年前の藤原京・宮跡一色に染まる歴史探訪となったが、土の下に遺構の眠るその場所にたたずみ、はるかいにしえに思いを馳せることができた一日となった。

(N.N 記)

◎神武天皇創世の地と新沢千塚古墳を訪ねる

実施日 平成30年12月1日(土)

参加者 14名

橿原神宮には参拝しても、その先までは足を運ぶことがなかった、と参加者は声を揃えた神武天皇の「畝傍東北陵」。今回コース最初の見学となった場所である。

この地は『日本書紀』にいう神武天皇即位の橿原宮跡と伝承され、江戸前期ころには小祠があったところに明治23年に橿原神宮が創祀された。皇紀2600年とされた昭和15年、記念事業として全国から120万人の勤労奉仕や献木もあって、神殿の修復や神苑の拡大整備、博物館の建設などが行われ、天皇陵もこの北に比定、整備されている。

一行は参拝後神苑東側の広大な地域にひろがる森林遊苑を通り抜け、畝傍山(標高199m)にゆっくりと登る。頂上中央には石垣に囲まれた山口神社の跡地、その周囲にいくつものベンチが置かれていて、この山に登る人たちがいかに多いかが分かる。山頂からは、西に二上山や葛城、金剛の山並みの広がり、北東には樹木の間から藤原京跡が見通せた。

本来ならば寒いはずの12月だが、今年は暖冬が幸いし、山頂でいただくお弁当は格別の感があった。食後、講師から『万葉集』に伝えられる大和三山の妻争いの話をうかがう。美貌の万葉歌人額田王と彼女をめぐる古代の英雄中大兄皇子と大海皇子という兄弟の恋争いの物語をダブらせて、いっそうロマンを募らせることができた。

このあと20分ほどかけて下山し、西麓に建つ畝傍山口神社に立ち寄る。以前、この神社は畝傍山の頂にあったが、橿原神宮建設時に不浄があつてはいけないと、現在の場所に遷されている。参拝後約一時間で橿原市博物館へ。ここでは、学芸員から隣接する新沢千塚古墳群について、また出土した展示物を見ながら、詳しく説明を受けた。



新沢千塚古墳群



畝傍山の山頂で

例えば、新沢千塚の前方後円墳について。この古墳のうち、国史跡に指定された東西約0.7km、南北約0.9kmの範囲には、約400基の古墳が密集して築かれていること、そしてその多くは円墳で前方後円墳はわずか16基を数えるのみで、円墳に比べると規模が大きく、古墳時代後期(6世紀)のものが最多であること、等々である。

このあと一行は学芸員同行のもと、群集墳の北部エリアの一部に足を踏み入れ、密集する大小の円墳を見きわめたり、発掘調査が行われた古墳の中の代名詞ともいえる 126 号墳の上に登るなどして、その大きさを確かめた。遠く海外からシルクロードを通じてもたらされた副葬品などに、興味が尽きないようで、「頭をどちらにして埋葬されていたのか」など熱心に質問する姿もみられた。このあと、公園敷地内の「ふれあいの里」で買い物を楽しみ、バスで檀原神宮前駅へと向かった。

(N.N 記)

3. 「吉野川の源流の水源地の森を守る活動」 支援

—吉野川・紀の川の源流、水源地の森—

◎吉野郡川上村三之公を訪ねる

実施日 平成30年11月1日(木)

参加者 17名

午前9時20分、近鉄八木駅に集合、貸切バスにて一路吉野郡川上村に向けて出発。

「森と水の源流館」より尾上忠大氏(源流館事務局長)と合流、バス車内で源流館の活動内容や沿道の説明を伺っているうちに目的地の川上村三之公に到着した。ここから辻谷達雄氏(源流館・前館長)に水源地の森「三之公」周辺をご案内いただき、河原で弁当昼食後、チゴロブチ人工林を見学しました。

まず、水源地の森・三之公への入山にあたり、参加者全員で山の神様に安全祈願を行いました。



源流を散策する



辻谷さんの話に耳を傾ける



チゴロブチ人工林で記念撮影

源流の入り口とはいえ河原へと続く道は険しく、周辺には大きな岩がごろごろし苔むした森と川の清流が「源流」の雰囲気醸し出している。

辻谷氏のお話は、付近の山で生息する動物や植物の生態系や自身の実体験に基づく昔の暮ら

しぶりなど多方面にわたり、大変興味深く伺うことができました。

また、次の見学場所の川上村中奥のチゴロブチ人工林では樹齢数百年とも思える見事な杉等の巨木が天高くまっすぐに伸びる様に圧倒されました。ここでは、吉野地方での林業の歴史や植林の手順、樹木の手入れ方法等分かりやすくご説明いただきました。



中東さんの説明を聴く

最後に、吉野町宮滝にある吉野歴史資料館を見学。中東さん（吉野町教育委員会事務局）から縄文時代以降の遺物が多数出土した宮滝遺跡の発掘現場と資料館で遺跡からの出土品などの展示物の説明を詳しく伺い、理解を深める事が出来ました。

今回のツアーでは、特に源流館のスタッフの皆さんのご協力により、一般には入山が出来ない、水源地の森「三之公」を見学することが出来、豊かな自然環境の水源地の森の一端を垣間見る大変貴重な体験となりました。今後も、水源地の森を守る活動支援に努めてまいりたいと思います。

(Y.N 記)

2019年1月発行

編集 中村優造

発行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル